

マルワリード II、今冬に全面堰上げを決定

異常少雨と大量難民送還にもかかわらず、ジャララバード平静

事務局のみなさん、後藤・村上先生、

飛行機が 2 日遅れ、やっとの思いでジャララバードに着きましたが、無事に作業に戻っています。ここは本当にいろんなことが起こります。予測できることもあれば、できないこともあります。予測が外れて嬉しいこともあり、困ることもあります。

強制送還の大量難民は現在、アフガン東部に留まっていて、その数、百万人以上、治安悪化による作業への影響を心配していましたが、ほとんど物騒な話を聞きません。無政府状態ではあっても、人々の生活は整然と営まれています。

しかし、決して困ってない訳ではなく、作業員を募集すると 50 倍の男たちが集まります。作業地では皆、同情を隠さず、毎日話題に上ります。この状態からカブールやドバイ、福岡など、きらびやかな繁華街の賑わいを思うと、別世界です。まるで井戸底からはるか上の空を悲しく眺めているようです。

この状態にありながら、様々な人間模様があります。欧米行きの切符を手に入れた裕福な若者たちが、落ち着きなくスマホをいじりながら空港にたむろしています。官職をカネで買った官吏が、私腹を肥やします。ほとんど隔離された外国の報道関係者が、アフガニスタンの平和を盛んに語ります。国際会議はお金の話ばかりに関心が集まります。

他方で、その日の食べ物に事欠く膨大な人々が、バザールで職を求めてうろつき、物乞いをしています。私たちの作業員でさえ、確実にその日の食事が約束さ

れている恵まれた人々に思えてしまいます。堪忍袋はとうの昔に切れ、何かが終わったと感じています。

さて、作業は、排水路工事が間もなく 1.7 kmの最終点に達します。取水堰の方は、河川水の異常低下に助けられ、今冬に一挙に全面堰上げを敢行します。1 月末に約 1 kmを試験送水する予定で、臨戦態勢を敷いております。詳しくは写真や図をご覧ください。いずれも作業員を倍増し、以前のマルワリード用水路のような活気あふれる作業が展開しています。しかし、50 人に一人の作業員選抜は、やはりつらいもので、やり切れません。

訓練所の土地問題は、ハイエナのような公的筋の人々が切り売りを企て、再びこじれていますが、おそらく人々が黙っていないと思います。建設を進めながら静観しております。一月末の試験送水はかなり努力が要りますが、先のことを考えて、何とか切り抜きたいと考えています。

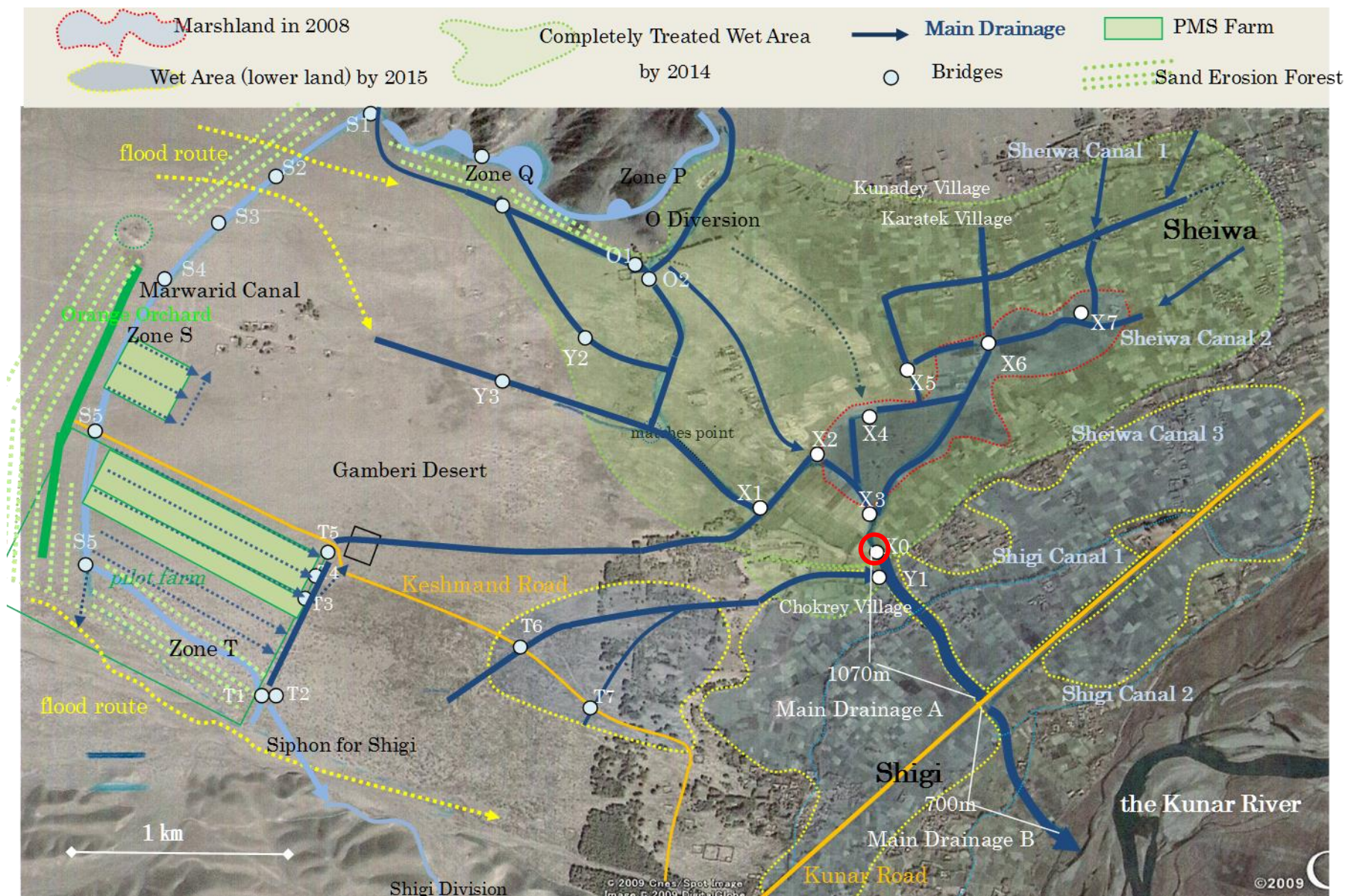
川辺は冷えます。風は蕭々として易水寒し、なぜか刺客の気迫に感銘を受けるこの頃であります。

みなさん、お元気で。

2016 年 12 月 15 日 記

主幹排水路の再建は、終局にさしかかっている。3月3日以来、全長1770mにわたってU字溝を敷設、最後の数十メートルを工事中。排水路網の拡大に伴って多数の架橋が行われ、地域別に番号がふつてある。X0地点は最も古いものだった（2010年建設）。既に湿地は消滅したが、水路壁の造成が続けられている。

排水路の現作業地点



主幹排水路の終点に相当する「X0 橋」地点。橋は仮架橋で、沼地に大量の砂利を厚く敷いて籠を乗せ、基礎の代用としていた。今回は全面的に撤去して新設する。水路床は計画通り 2.05m 下がり、周辺村落は喜びに包まれた。

2016 年 12 月 13 日



完成したシギ水道橋。ついでに、浚渫用の穴と手すりがつけられている。転落する子供が少なかった。2016 年 12 月 13 日



水道橋はPMSの建設したシギ堰の主幹水路を通すもので、シギ下流域の生命線。今回は、ついでに歩行者の交通路も作り、女性や子供が喜んでいる。2016年12月13日



排水路の基礎は出来あがったものの、側壁の造成が膨大。現在 4 チーム（約 100 名）が手分けして作業を急いでいる。浸潤線が下がって地面の湿気が取れると、むき出しの部分が乾いて崩れやすくなるからだ。村の殆どの青壮年は、かつてマルワリード用水路建設に従事した経験があり、作業はかなり早い。

（動画あり） 2016 年 12 月 13 日



湿地あとの一面の小麦畑。チュクレイ村もかなりの難民をパキスタンに出した村で、タイミングが絶妙。2016 年 12 月 13 日

